

二〇一七（平成二九）年一月下旬、熊本地震から九カ月が経った被災地を歩いた。西原村・小森仮設住宅では、ヤクルト（乳酸菌飲料）をお客さんに届ける販売員の女性の姿があった。

「安否確認をかねて、声かけをしています。私の同僚が、調子のわるそうな顔を見て救急車を呼んだり、親戚のかたへ連絡をとったりしたことがありました」

話を聞きながら私は、ヤクルトを久しぶりに飲み干した。

訪問看護の現場から

益城町のテクノ仮設住宅は、阿蘇熊本空港の近くにある。五一六戸、入居者約一三〇〇人の大規模仮設住宅である。ここでは、益城町社会福祉協議会の委託を受けて訪問看護団体「キャンナス熊本」が戸別訪問を行う。

担当の看護師の女性が言った。

「町の保健師から情報をもらって、看護師七人で身体的に見守りが必要

ないときは、見守りをしています。話のなかで、食べているか、眠れているかを聞き取っています」

話は続いた。

「週に一回の訪問が必要な人は、一〇人以下でしょうね。病気の自覚がない。家に引きこもっている。トイレは行けるけど、転倒の危険がある。手術をしたばかり。そうした人たちが、継続して一カ月見守っています。二三日に一回、巡回する人もいます」

なかには、病院へ行ってほしい人がいる。

「血圧が一八〇～一九〇あって、自覚がない人がいるのです。体がいうことをきかずに自分で血圧測定できない人には、私たちが行って測っています。病院へ行くのは本人の意思なので、強制はできないのです。『病院へ行ってくださいね』と声をかけています」

看護師の女性は精神的問題にふれた。

「地震原因のうつは、意外と見かけません。世帯分離で悩む人が、思っ

中臣さんの
環境衛生ウォッチング

第55回

— 熊本地震 — 九カ月後の 仮設住宅を見て 「健康と コミュニティ」

な人たちを巡回しています」

三カ月をかけて全戸をまわり、健康リスクがない人をのぞいた。うち約一〇〇戸は不在で、仕事などで自立できていると判断された。

「巡回は、独居世帯、昼間のみの独居、六五歳以上を選んでいきます。健康対策では、ノロウイルスの感染者

たよりいなのです。身内を亡くして、落ち込んだ方はいました。仕事に行くようになって心が持ち直しましたね」

彼女の事務所がある地域支え合いセンターは、仕事のひとつに自治会のサポートがある。

「サロンのお茶会を開いています。毎日、集会所や談話室の場所を変えています。サロンでは、談笑するほか、血圧測定、体温測定もしています。皆さん仲良くなって、週に一回、いっしょに散歩する人たちがいますよ。サロンを楽しみにしている人たちがいますね」

コミュニティの形成が進む。

仮設住宅と コミュニティ

私が仮設住宅で目にして、コミュニティづくりの一端を担っていると感じたのが移動販売車や移動図書館だった。

熊本市・秋津仮設住宅は公園内に立地する。五四戸、入居者一四二人である。自治会はできていなかった。



中臣昌広

●保健所 衛生監視員
なかとみ・まさひろ

がいましたから、ノロウイルス予防のチラシを配りました。肺炎になって、救急車で運ばれた人もいました」

命にかかわる問題で、高齢者が注意しなければならぬのは入浴時のヒートショックだ。入居者の六〇歳代の女性は話した。

「となりのご主人が、二回、風呂場で調子がわるくなったんです。ご夫婦で住んでいて、旦那さんが浴槽のなかで具合がわるくなったと呼ばれました。太っていてそのまま浴槽から出すことができなかったんです。湯を抜いてから、体を出しました。二回目は、意識があっても空返事だったので、救急車を呼びました」

彼女は、仮設住宅の問題点を感じていた。

「高齢者が多いのです。二世世代家族の場合、若い人たちは『みなし仮設住宅』に入って、高齢者が応急仮設住宅にいるケースを多く見かけますから」

前述の看護師の女性は説明する。

「基礎疾患の高血圧、糖尿病、心疾患などの方がいます。元気な様子が

木曜午後二時すぎ、私が着いたときに週に一回のグリーンコープ（生協）の移動販売車がやってきた。

移動販売の二回目だった。販売は約三〇分間だ。六〇～七〇歳代の女性たちが七～八人集まって、買い物をする。

車には、野菜、パン、乾物などが並ぶ。冷蔵庫には、納豆、豆腐、揚げ、ヨーグルトがある。

お互いにあいさつして言葉をかける女性たちのにこやかな表情が印象的だ。コミュニティのきっかけができそうな雰囲気に見えた。

入居者をサポートする社会福祉協議会（社協）の男性職員が説明した。

「販売車が来ると、グリーンコープの職員が『いま来ていますよ』と各戸をまわります。車から音楽を流してわかるようにしていますけど、耳が遠い、耳が不自由な人にも伝わるようにしているのです」

販売車の横に、アウトドア用のテーブルと椅子が並べられた。コーヒールと試食用のパンが無料で提供される。

コープ職員の女性が言った。

「コミュニティーをつくるお手伝いをしていのです。利益はないですから。避難所でみなさんに食べてもらったのと同じ商品を買ってもらって、『同じ味ね』と言われてうれいすね」

社協職員が言った。

「この仮設住宅のまわりにはスーパーが数店あって、買い物には便利がいいところなんです」

それでもあえて移動販売車に寄ってもらっている。コミュニティーづくりの力になるからだ。

益城町・木町仮設住宅では、平日の午前にボランティア団体の移動図書館が来ていた。六〇〜七〇歳代の女性たちが、返却用の本、雑誌を抱えている。「見出ししか読めなかったわ」。笑いながら女性が言った。ボランティアの男性が声をかけた。

「いま、お茶がはいってるけん」
小さなコミュニティーができていた。

西原村・小森仮設住宅では、毎週

ずれも午後に、南側の部屋で一九〜二二℃だった。

こうした暖かさの要因は、仮設住宅の窓が南向きなことだ。特に冬は、窓から差し込む日が部屋の奥までとどいて暖かさを保ってくれる。窓が、ガラス、ポリカーボネート板の二枚構造になっていることが断熱性を高めている。

そのため、暖房がエアコンだけであつても暖かさを保っている。

しかし、一方で玄関は金属製の一枚扉であり、冷たい夜間の外気の温度が伝わって結露ができやすい環境である。

入居者の女性から「水が流れるくらいに結露します。毎朝のふき取りが欠かせません」と聞いた。
結露対策として、通称プチプチと呼ばれる、壊れ物の包装材に使う空気の入ったビニール包みを断熱材として扉に張っている家庭を見かけた。

東日本大震災被災地の仮設住宅では、室内にできたカビが原因でぜん息発症があつたと見られる、との報



金曜の午後に天草のスーパーから移動販売車が来る。到着に合わせて、三〜四人の女性たちが集まってきた。車には、新鮮な魚、肉類が並ぶ。カンパチの刺身パックは、人気があるせいか二〇個以上が冷蔵庫に入っている。

二〇歳代の女性店員の声が響く。
「車で二時間半かかるので、この時間じゃないとこれんどです。私は西原村に住なんですけど、家が地震でなくなつて、みなし仮設に入っているんです。店長は、朝に天草で魚を仕入れてこの販売をしています。鮮度がぜんぜん違いますよ」

告がある。カビの前兆となる結露を安易にとらえないで、あらためてふき取りや就寝前の換気などの対処が必要だと思つた。

保健師がつなげる

仮設住宅を訪れた帰路、益城町・福祉保健センターで保健師の女性と話をする機会があつた。私は、こんな例を話した。

「仮設住宅の構造に、窓の脇に換気用で外気を取り入れるための給気口があります。一五センチ四方の大きさです。私が尋ねた入居者のほとんどの人は、存在を知りませんでした。結露やカビを抑えるためにも、給気口の目的、位置、使い方などを入居者へ理解してもらう必要があるでしょうね」

保健師の女性は言った。
「カビについては、国から注意するようにと言われていきます。戸別訪問では、カビの相談はいまのところ出ていませんが」

今後、保健所・環境衛生監視員が、

見慣れない私に向かってても元気な声が飛ぶ。

「ハハハ。販売車は、また来ますので、どうぞ来てください」
入居者の七〇歳代の女性との交流もかいま見た。
「きょうは、赤ちゃんを預けたんですか」

「母に。ハハハ」

その明るさが入居者たちを元気づけて、コミュニティーづくりに貢献しているように見えた。

仮設住宅は暖かい

私は幾度となく、仮設住宅の入居者の方へ質問した。「寒くないですか」。その答えはいずれも意外なものだった。「暖かいです。元の家は一戸建てで寒かったのです」

私には、東日本大震災被災地の東北地方の寒冷地の仮設住宅での「寒さ」が頭にあつた。地域による気候や住居の構造などを考慮することが必要だろう。実際に私は、協力を得て三カ所の仮設住宅で測定した。い

結露、カビなど住まいの衛生の面で貢献できるのではないかと思つた。彼女は、住まいの衛生の面で保健所につなげることができたら相談したいと話した。

後日、私は顔見知りの熊本県担当者へメールを出した。

「福祉保健センターで、保健師のかたと話をしました。その際、仮設住宅への戸別訪問で、生活者のかたから結露、カビの対策などの相談を受けたときの対応について話がありました。私から、保健所・環境衛生監視員が対応の知識をもっている旨を説明しました。場合によっては、保健師のかたから保健所へご相談があるかもしれません。保健師へのご説明、仮設住宅の現場でのアドバイスなど、ご対応が可能でしたら、よろしくお願いいたします」

多職種が協力して、仮設住宅での問題点を解決する。それが、再建住宅や災害公営住宅など恒久住宅へ移るまで、入居者の命と健康をまもる行政の大きな役割だと思つたのである。



中臣さんの環境衛生ウォッチング